

◎野木京子 2月

気になる詩、好きな詩、すぐれた詩を読むと、感想がいろいろ自然に湧いてきます。佳作として選んだなかで、特に心に残った作品を紹介します。

猛吹雪の外を眺めながら

頬張るいちご

口から鼻への道程に

春の風が吹いている

春乃 水香（北海道）

*イチゴの味と香りを「春の風が吹いている」と表現する感受性。雪の白とイチゴの赤の色彩の対比、外の氷点下と春の温度の対比も鮮やか。

なりたくて

なるようなものじゃ

ないけれど

ぼくは凡人

なのに幸せ

儀間ゆみ（沖縄県）

*なるほどと納得。凡人とは、常識を持つ謙虚な人のことでもある。他人を苦しめることがないから自分も幸せで、凡人とはすぐれた性質の持ち主。

静脈のような路地を歩けば

私もあなたも銀河の細胞

燦嗣いとり（愛知県）

*「静脈のような路地」という比喩が印象深い。生き物の体温と湿度を感じさせ、流れるように続く、静かな路地。そしてマイクロから一気に宇宙的マクロの視線へと移動する。

いじめとは
ウイルスのように
広がって
いつか居場所を
奪うテロリズム

加藤 美紀（愛知県）

*いじめ=テロリズムと断言する怒りと悲しみ。こういうウイルスが近づいたときは、意識して、感染予防しなければならない。

白という色の絵の具は
どれだけ多くの人に
求められているかを
自らは知らない

風船（東京都）

*人間関係でも、多くから好かれていることに案外気付かないままの人がいて、そういう人を、白い絵の具の人、と呼んでみたい。

母の肩を揉めば
霜柱の音がする
どれだけの雪に耐えてきただろう

さいう（愛知県）

*「母の肩を揉めば／霜柱の音がする」この表現に、てのひらのぬくもりを感じ、凝った肩の音が聞こえるようだ。味わい深かった。

思います。を

多用するなど叱られて
断定世界の端で泣いてる いろは（京都府）

*この気持ち、よくわかる。優しい心の持ち主だから、断定できない。断定できないから、ときには損をするけれど、それでよいと思う。

あの世とは
どの世のことか知らないが
届かぬ手紙ばかり書いてる 梁川 梨里（群馬県）

*詩の本質とは、届かぬ手紙を書くことだと言ってもいい。そして、たしかにそう。あの世と簡単に言うけれど、それはどの世なのだろう。

周りに流されるのがわりと好きだ
漂流していると
いろいろなものが見えるから ごんし（愛知県）

*賢い生き方だと思う。世間ではネガティブだとレッテルを貼られていることでも、詩では逆手にとることができる。